

広報

# あかいけ

# 12

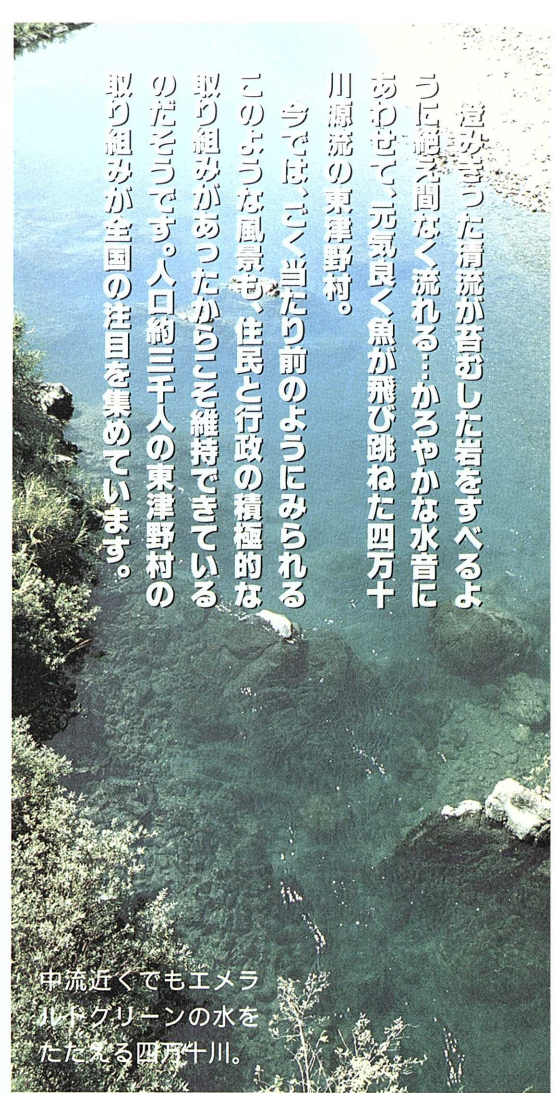
平成十二年の九州一級河川水質ランキングでは、私たちの生活に密着する彦山川がワースト三位、その下流である遠賀川がワースト一位という悲しい結果でした。今や川の水質低下は深刻な問題となっています。一刻も早い川の水質浄化が叫ばれるなか、国土交通省遠賀川工事事務所の協力で、ひこさんがわ夢の会十二人が、九月に高知県の四万十川を視察。日本最後の清流といわれる四万十川の環境づくりから、川を守り未来に引き継ぐために必要なことを考えてみました。

源流の清い流れ……どろどろと濁ってしまひのどろ……

## 特集 「母なる川を守る」



写真：彦山川源流



澄みきった清流が音おした岩をすべるように絶え間なく流れる。かろやかな水音にあわせて、元気良く魚が飛び跳ねた四万十川源流の東津野村。

中流近くでもエメラルドグリーンの水をたたえる四万十川。

## 今

から二十五年前、高知県は昭和五十一年から五十六年にかけて行った東津野村の造成事業にともない、蛇行していた八三〇坪の河川を一四〇坪にショートカットしました。その際、河川に長さ三〇坪、高さ六坪の落差を建設。魚道が設置されてはいるものの、工事の土砂がたまり封鎖され、魚が川を上ることはできませんでした。

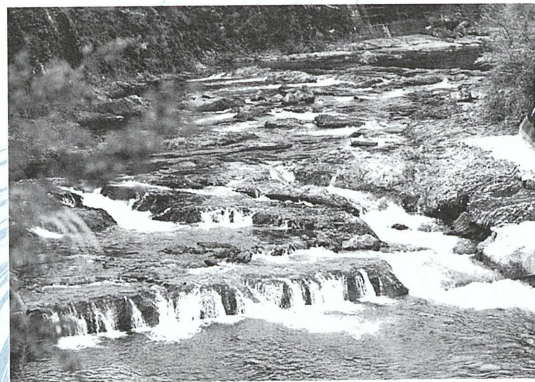
また、川岸をはしる国道四三九号線の拡幅工事にもない、川はコンクリートに覆われ、河床の石がなくなってしまう。その結果、魚のエサとなる小動物が激減し、四万十川源流の生態系が壊れてしまったのです。

そんな危機的な状況を改善しようと、東津野村では平成三年から七年にかけて、住民を中心とした視察団

をスイスへ派遣。西日本科学技術研究所の福留脩文さんを講師に迎え、四年間で約五〇人が研修しました。費用は、ふるさと創生資金を活用したそうです。

スイスでは河川のみならず公園や住宅など、あらゆる生活環境のなかで動植物との共存が図られています。例えば、動物専用の陸橋があったり、公園の芝を全部刈らずに一部分だけ残したりなど様々な工夫をこらしていました。みなさんは日本との意識の違いを痛感したそうです。

こうして、スイスで得た知識をもとに、団員のみなさんを中心に、村あげて川を復活させる取り組みがなされました。近自然工法で動植物に配慮した環境保全を行うため、住民と国・県・村が一体となり、大規模な改修工事を行ったのです。



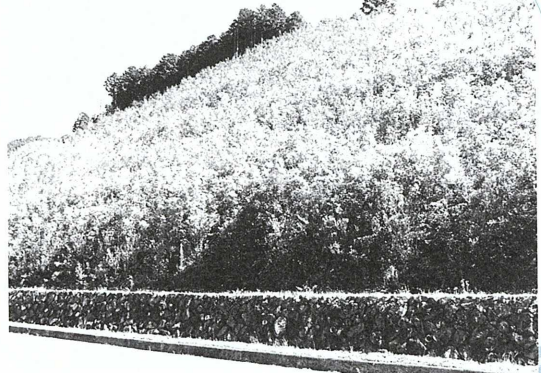
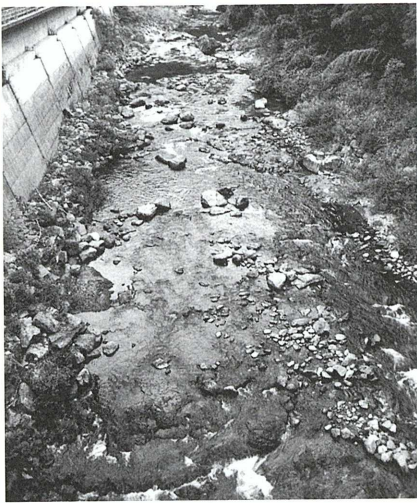
魚の障害になっていた六坪の落差を削り、岩盤を利用した近自然の状態に変化させた。

コンクリートに固められ一直線だった川に敷石をし、流れに変化を持たせ、魚のエサとなる小動物が生息できるようにした。



川への流れ込み部分も工夫され、魚の昇降道や獣道として役立っている。

環境に配慮し山の斜面には中低木が植樹されている。景観面からもコンクリートよりやさしい印象を受ける。



## 画期的な取り組みで源流がよみがえった

まず、高さ六坪の落差を三坪削り、魚が自由に上り下りできるようにしました。上段には瀬や淵を設け、川の流に多様性をもたせ、岩盤に穴をあけ地域に植生しているものを栽培。さらに下流のコンクリートで覆われた部分では川を蛇行させ巨石を随所に配置し、川縁に大規模な植生を行いました。同じくコンクリートで固められていた流れ込み部分には魚道と獣道を設置しました。

地域でも環境への意識が高まり、いくつかのボランティア団体を中心となって、自然環境とマッチした地域づくりの取り組みが行われるようになったのです。

これだけでも素晴らしいのですが、東津野村ではさらに画期的な取り組みがなされています。

豊かな川にするためには、自然の養分と、きれいな水が必要です。普通、山の斜面などを工事した場合、その斜面はコンクリートで固められていますが、高知県では自然環境に配慮し、工事斜面に中低木を植苗しています。

東津野村は、その種になるどんぐりを子どもたちから一kg五〇〇円で買い取ります。その種から村の身障



四万十川は水産資源の豊かなことから、川で生計を立てている川漁師も多く、様々な伝統漁法がみられる。写真は伊藤流。

者グループが苗を作り、その苗を県が買い取って植苗しているのです。また、川の景観にも配慮し、川測の植物を保護指定しています。

緑の斜面は、コンクリート壁より見た目も良いですし、植物などのミネラルが川に注ぎ込むことになるのです。川を汚さないための下排水処理も東津野村では慎重です。

合併浄化槽で自然分解するために全国でもマレなバクテリア処理を行っています。実際、村役場ではその処理水で錦鯉が飼われているほど、充分キレイになります。

しかし、それを直に川に流すようなことはしません。処理水を地下に浸透させ、自然ろ過した後、川に流れ込むようにしています。

川を汚すような排水には、行政よりも先に、住民どうして指摘しあうそうです。

このような長年にわたる地道な取り組みによって、日本最後の清流といわれる四万十川の源流が守られています。

植物が生い茂り、小動物が生息し、魚が飛び跳ねる東津野村。豊かな自然がよみがえり、今では、鮎のシーズンになると多くのファンが訪れています。流域住民の誇りとして、四万十川は愛され親しまれています。